

WEEKLY SIGNAL

2020年9月25日(金) 1543号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/28(月)	9/29(火)	9/30(水)	10/1(木)	10/2(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	トン	+ 100	トン	△ 1,000
財政他	+ 1,000	△ 2,000	△ 1,000	△ 25,000	△ 68,000
資金需給	+ 1,500	△ 2,000	△ 900	△ 25,000	△ 69,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			国債発行・償還(2年)	国債発行(10年) 税保険揚げ
オペ期日	CP等買入 △ 1,000 補完供給 + 900 ドル担保補完供給 + 1,600				ドル担保補完供給 + 1,600
オペスタート		CP等買入 + 6,000			
(日本)	景気先行CI指数(7月) 景気一致指数(7月)	日銀金融政策決定会合における 主な意見(9/16・17分) 東京CPI(前年比)(9月)	鉱工業生産(8月) 小売売上高(8月) 百貨店・スーパー売上高(8月) 住宅着工件数(8月) 工作機械受注(8月)	日銀短観(9月調査)	有効求人倍率(8月) 完全失業率(8月) マネーベース(9月)
(海外)	米 グラブランド連銀総裁 講演	米 ニューヨーク連銀総裁 講演 米 フェデラルリザーブ連銀総裁 講演 米 消費者信頼感指数(9月) ユーロ圏 景況感指数(9月)	米 ADP雇用統計(9月) 米 GDP(2Q) ユーロ圏 CPI(9月)	米 ニューヨーク連銀総裁 講演 米 新規失業保険申請件数(26日終了週)	米 フェデラルリザーブ連銀総裁 講演 米 雇用統計(9月) 米 製造業受注(8月)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△ 0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	0.000 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.050
SPOT 6M	0.000 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初に国債償還等を要因に増加し、478兆6,400億円から始まった。その後は国債買入に加えて、新型コロナウイルス感染症対応金融支援オペが9兆9,869億円落ちされたこともあり、487兆4,400億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.046%で始まった。先週に引き続き強い地銀業態の調達ニーズに加えて、一都銀業態の調達意欲が徐々に強まったことから上昇基調となり、週末の同加重平均金利は△0.030%まで上昇した。
ターム物は、月内ショートタームを中心に△0.03~△0.04%で出合いが見られた。
政府は、24日公表の月例経済報告にて「依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きが見られる」として2か月連続で景気判断を据え置いた。
来週の主な予定として国内では7-9月期の日銀短観(10月1日)、8月の有効求人倍率の公表(10月2日)、海外では9月の米消費者信頼感指数(9月29日)、米新規失業保険申請件数(10月1日)の公表が予定されている。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△ 0.03 ~ 0.000
TDB 3M	△ 0.210 ~ △ 0.165
現先(on/1w)	△ 0.05 ~ 0.00

<C P>

今週の入札発行総額は約4,300億円で、週間償還額(約1兆1,900億円)を下回った。発行市場は、営業日が3日と少なく、中間期末の有利子負債の削減ニーズのため、期日償還が多くなったと思われる、週を通じて案件少なめで落ち着いた市場であった。
先週末の市場残高は25兆8,585億円であったが、24日時点では25兆5,530億円と、小幅減少した。25日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でおファーされた。結果は、按分レート△0.034%・平均落札レート△0.027%と前回(按分レート△0.058%・平均落札レート△0.039%)比で上昇した。
来週の週間償還額は、月末日の大量償還(2兆4,000億円)を含み約2兆6,200億円となっている。月末スタートは償還額より大幅に減少する見通しで、月初スタートの発行再開が見込まれるものの、償還超と思われる。発行レートは、浅いマイナスから0%前後の出合いを予想するが、発行量の少ない銘柄ではやや強いマイナスレートでの発行が見込まれる。

<TDB>

24日の6M939回債(3/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.1410%(前回債△0.1330%)、平均落札利回り△0.1430%(同△0.1450%)となり、入札後△0.16%の小額出合が見られた。25日の3M940回債(1/6償還)の入札は、最高落札利回り△0.1659%(前回債△0.1045%)、平均落札利回り△0.1860%(同△0.1107%)となり、入札後△0.20%~△0.19%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M938回債(12/21償還)が△0.133%~△0.119%のレンジ、3M936回債(12/14償還)が△0.130%~△0.115%のレンジで取引された。

<レポ>

足許GC取引は、短期買入オペがオフアされた24日受渡しでは△0.105%~△0.095%で取引された。翌日以降、一時△0.11%台に低下する場面も見られたが、短期3Mの発行日となる28日受渡しの取引は、△0.105%~△0.09%で推移した。SC取引は2年408~416回債、5年137~144回債、10年340~359回債、20年166~173回債、30年59~67回債、40年10~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。